

2024年度 沖縄大学
学校推薦型選抜

「管理栄養学科小論文」
問題用紙

2023年11月25日(土)
9:00~10:00

下の文章は、古波蔵保好（1910～2001）著『料理沖縄物語』からの抜粋です。沖縄県の平均寿命はかつて全国一位を記録していたものの、男性は1990年に、女性は2010年に全国一位を失い、その後も順位の低下が続いています（2020年男性43位、女性16位）。現代の食生活と沖縄の長寿復興に関してあなたの考えを600字～800字で述べなさい。

「じゅうしい（出題者註：沖縄風の炊き込みご飯）」には、たいていキウリの酢のものを添えることになっている。豚あぶらで光っているご飯を食べるのだから、酢のもので口をサッパリさせるためであろう。

だが、酢のものを添えない家もあったようだし、「じゅうしい」そのものに肉やかまぼこなどを入れないで質素につくる家も多かったのに、コドモたちは、きょうは「とううじ（出題者註：冬至）・じゅうしい」を食べるんだ、となかなかうれしそうだった。

今どき、「じゅうしい」一品だけの食事を、特別なごちそうだと思う子はいないのではないか。どうしてわたしの遊び仲間であった、近所の子たちがあんなに喜んでいたのか、当時は考えたこともなく、少しはものを思う年ごろになってから、やっとわたしは気づいたのである。

あのころ、わたしの遊び仲間には農家の子が多かった。農家の人たちが常食としていたのは芋（甘藷）である。毎日芋を食べて育っている子たちは、ご飯にあこがれていたらしく、だから米の「じゅうしい」がごちそうだったのである。

念のためにつけ加えておくと、今は芋を常食としている家などまったくないそうだ。戦前に郷里を離れて、戦後の事情にうとくなっていたわたしが、ふたたび沖縄往来をするようになって、たまたま友人たちと語りあった時のこと。昔は貧しいと芋を食べて暮らしたものが――というわたしに、友人の一人が笑って答えたのである。とんでもない、芋を常食にしたら破産してしまう、と。

いつの間にか、芋の値段が配給の米より高くなっていった。

（出典：古波蔵保好著『料理沖縄物語』講談社、初出1983年、講談社文庫 Kindle版2022年7～9頁より抜粋）